

しま ひなん ひと
島から避難する人も

悪石島(7月4日、本社機から)

震度6弱の地震の後にも震度5強に見舞われるなど、大きな地震に繰り返し襲われている悪石島。人口100人に満たない小さな島です。7月7日まででケガなどの被害は確認されていませんが、希望者はフェリーで鹿児島市に避難しました。

島の唯一の学校である悪石島学園では、揺れるたびに児童や生徒が屋外に避難してはきりがないので、7月3日には中庭で勉強をしたそうです。翌日は臨時休校にしました。笠房芳朗校長によると、100回以上揺れる日もあると言います。「揺れるたびに身構えるので疲



鹿児島市に避難してきた悪石島の住民(7月4日)

れる。子どもたちは不安を口にしており、心の傷が残らないかが心配だ」と話していました。



地震が相次いでいる一帯

九州の南 トカラ列島 地震相次ぐ

2週間余りで1600回

九州の南にあるトカラ列島で、地震が相次いでいます。6月21日からの2週間余りで、人間の体を感じる震度1以上の地震は1600回を超えました。7月3日には悪石島という島で震度6弱の大きな揺れも観測しています。どうしてこんなに地震が続くのでしょうか。

悪石島では、過去にも地震が集中的に続けて発生する「群発地震」が起きています。この島の地中はプレート(時事フォーD6)の動きで様々な方向に



悪石島 震度6弱

日本は図のように、4つのプレートが押し合いへし合いしている上に位置しています。プレート同士がぶつかり力がかかり続けているため、地震が多いのです。

専門家

いま心配されている南海トラフ地震は、東日本大震災と同じように「海溝型」と呼ばれる地震です。沈み込むプ

前兆ではない



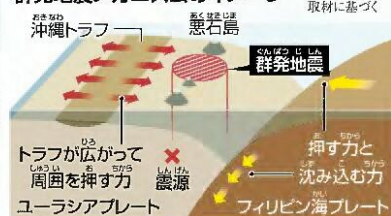
プレートによってひきずられたもう一方のプレートが元に戻ろうとはねあがった時の揺れです。

専門家は、プレート内部のひずみによるものとされる今回の地震はタイプが異なり、距離も離れているため、南海トラフ地震の前兆ではないと考えています。

っているユーラシアプレートは、近くで沈み込むフィリピン海プレートから押されている。この付近は海底でこの地形がそのまま沈み込み、地中で激しくぶつかってひずみがたまりやすいのです。その

地中の岩盤は、ひずみがたまると割れてしまいます。そのときの揺れが地表に伝わって地震になるのです。ただ、それがなぜ今のタイミングで起きてきているのかは、よく分かっていません。

群発地震メカニズムのイメージ



※専門家への取材に基づく

暑さ対策にヨーグルト

せいじ

「日本一暑いまち」として有名な埼玉県熊谷市は6月27日、ヨーグルトで市民に夏の暑さを乗り越えてもらおうと、乳業大手の「明治」との共同プロジェクトを始めた。

ヨーグルトに含まれる「乳たんぱく質」には、体の中の水分を保つ効果があることが、明治の研究でわかっています。熱中症の予防にも使えるのではないかと、明治が熊谷市に声をかけて、プロジェクトが実現しました。

プロジェクトの一つとして、熊谷市のご当地かき氷「雪くま」に明治のヨーグルトを合わせた新商品が開発されました。熊谷市内の飲食店など6店舗で味わうことができます。ほかにも、保育所や高齢者施設にヨーグルトを無料で配る予定です。

小林哲也市長は「おいしくヨーグルトを食べながら、健康に熊谷の夏を過ごしてほしい」と話しました。



ヨーグルトを使った雪くまを試食する女性(6月27日、埼玉県熊谷市で)

新紙幣 交代進まず

けいざい

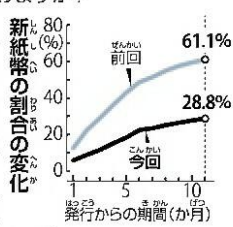
新紙幣の発行から7月3日で1年がたちました。新たな肖像は1万円は渋沢栄一(『時事ワード6』)、5千円は津田梅子、千円は北里栄三郎。新紙幣はどのくらい見かけますか？

日本銀行が調べたところ、世の中に出回っている紙幣のうち、新紙幣の割合は5月末時点で28.8%で、2004年に紙幣を新しくした時

より交代のペースが遅いことがわかりました。新紙幣の割合は5千円と1万円は2割にとどまっています。

交代が進まないのは、古いお札が日本銀行に戻ってこないからです。

理由のひとつが、支払う時に現金を使わない「キャッシュレス」が進み、お札を使う機会が減ったことです。さらに、銀行に預けても得ではないと考える手元に置いておく「タンス預金」をする人も多く、自宅などで保管されている旧札も多いとみられています。



街のような詐欺拠点

せかい

東南アジアの国「カンボジア」で、日本に電話をかけて詐欺をはたらく犯罪グループの摘発が相次いでいます。警察に捕まった人の話から、犯罪グループの拠点はスーパ



カンボジア東部プレイベン州にある拠点とみられる場所

「お金を稼げる」などと言われて集められた人々。高い壁に囲まれ、銃を持った警備員が見張っている。拠点の外には出られません。敷地内のコールセンターで、警察などを名乗ってお金を振り込ませようとする電話をかけながら生活していました。

拠点の中では、日本以外の国の人たちも生活していたといえます。カンボジアは、こうした拠点の摘発を進めていて、5月には、詐欺に加わった外国出身の4840人を救出したことを明らかにしています。